



鱈ヶ沢地域は 青森県の南西 津軽富士として知られる岩木山の北西に位置している。北東の鱈ヶ沢は古くから漁村として栄えていた。徳川中期の旅行家 菅江真澄は度たびこの地を訪れている。中村川や赤石川をさかのぼり薬草や金石を採取し 俳友と交わり 秀れた紀行文(津軽野など)を残しているが やがて鱈ヶ沢を去り 海岸沿いに追良瀬 深浦を経て久保田(現在の秋田市)に至り この地で客死している。

この地域の西と北は 南方の白神山地から延びる山地で 東は低平な丘陵台地が広がっている 山地にはグリーンタフと呼ばれている安山岩や流紋岩の溶岩や火砕岩類からなる新第三紀の大戸瀬層と 礫岩や砂岩など浅海性の堆積岩類からなる田野沢層が また丘陵台地には含油第三系と呼ばれている。同じく大童子層・赤石層・舞戸層・鳴沢層など一連の海成層がそれぞれ分布している。また海岸沿いには第四紀の海岸段丘が分布している。

新第三系のうち 大童子層と赤石層は 秋田地方の女川層と船川層に対比されてきた。しかし両層は秋田地方の様に明瞭な岩相の違いが見られず 鱈ヶ沢統 鱈ヶ沢層など一括されたり 調査者によって区分がまちまちであった。また赤石層と舞戸層の間にも同じような問題があった。問題解決の方法として (1)珪藻化石 特に今までほとんど見つかっていなかった大童子層では 炭酸塩団塊から多数の珪藻化石を発見し これによる分帯を行っている。また (2)多数の泥岩をX線回折と蛍光X線による全岩分析を行い これら3層の泥岩の鉱物量比 SiO₂%などの違いを明らかにしている。また赤石層に特徴的な硬軟互層の硬部と軟部を分けて分析し その成因にふれている。

同じ問題は 北海道南西部の新第三系のなかでも見られ 前記の女川層と船川層 大童子層と赤石層に相当する地層は八雲層として一括されている。これは船川層相当層は北に向かうに従ってより珪酸質になることを意味しており、この原因として珪藻前線北上説をあげている。

この地域の西 大戸瀬海岸には千畳敷と呼ばれる広い海食台地が発達し 観光地となっている。この台地は寛政4年(1773年)の西津軽地震によって隆起したもので この地域は宝永1年(1704年)など 有史・先史時代に度たび地震に見舞われて来たらしい。 p. 59には海

5万分の1地質図幅の新刊
鱈ヶ沢
AJIGASAWA
5万分の1地質図幅 地域地質研究報告

著 者 平山次郎・上村不二雄
発 行 工業技術院 地質調査所
取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401
そのほか全国主要書店
販売価格 2,390円

岸段丘を切る鳥居崎断層(逆断層)の写真が掲げられている。段丘面の変位 活断層など 活構造の研究者にとっても恰好なフィールドである。
この地方の従来の地質図幅に比べてユニークな報告である。

地質ニュース	第376号	12月号
	定価 ¥ 600	〒 実 費
昭和60年12月1日	発行	
編 集	工業技術院地質調査所	
発行人	林 久	雄
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	